

「ビバハウス」の合宿型支援活動は前号 NO.123 の通り終了しましたが、引き続き相談活動などは現地で継続しますので、「ビバハウス便り」はそれらの報告のため継続します。(事務局)

ビバハウス便り No. 124 第 51 回北星余市高校卒業式行われる 2018年3月4日  
青少年自立支援センター ビバハウス  
責任者 安達 俊子

前号 123 号でお知らせしたようにビバハウスとしては昨年末を以って「合宿型就労支援活動」は終了させましたが、これまでビバに関わった若者達との絆は深まりこそすれ、途切れる事はありません。1月10日には現在余市在住のビバ卒業生など全員で小樽の運河亭で新年会を行いました。お互いの健康を喜び合い、近況を報告しあい、新年の抱負を述べ合いました。

この間にいろいろな事がありましたが、今年の卒業シーズンはビバにとって、忘れられない時になりました。ビバ生活中に不運な事に仲間と共にモンガク農場の除雪中に、手首に傷を負わせてしまった奈良県からの若者がケガの治療後、実家に帰ってから、このケガにも負けずに地元の高校に入学し、この3月1日に卒業できたとの連絡が入り、ビバ関係者一同心から喜びあいました。

その2日後に重ねて嬉しい事がありました。

3月3日に行われた第51回北星余市高校卒業式の53名の卒業生の中に、29歳で卒業証書を手にした、忘れられないビバハウスの卒業生がいたからです。彼は青森県で母親と共に自宅に引きこもっていた若者で16歳のときに母親の説得で、ビバハウスにやって来て1週間の試験入所をただけで再び自宅に引きこもり、9年後に今度は自分の意思でビバに正式入所し、友達にも恵まれ、北星余市高校への進学も志し始めました。北星高校入学後はまさに水を得た魚のごとく自ら生徒会役員にも志願し、放送研究会でも新たな才能を発揮し、私学助成運動の輪の中にも飛び込み、大勢の人と交わる事で自分自身の個性と才能を十分に開花させた若者だったのです。卒業式前に、自由な校風で知られる関東の有名私立大学への進学もすでに決定しています。

彼についてはまさにビバハウスと北星余市高校での若者の変化発展の典型として、つい最近これまでも長く親交のあるHBCテレビのディレクターの要請で、取材の収録をビバハウスで終えたところです。どんな番組が放映されるのか、私達は今から楽しみに待っているところです。

平野校長先生の式辞の中で、この学年の入学時点の生徒数は41名だったが、卒業までの間に2年次、3年次の転編入生が多かったので12名も生徒が多くなって53名の卒業生を送り出す事が出来た。

入学時より卒業時の生徒数がこれだけ多くなったのは北星の歴史でも初めてのこととの報告もあり、出席者一同心から喜びあいました。



(写真は北海道新聞2018年3月4日付)